

いま、悩んでいるあなたへ

～こころのケアの専門家からのメッセージ～

第2部：精神保健福祉士からのメッセージ
スクールソーシャルワーク（学校教育）分野より
岡本 亮子

学校で見られる子どもの心配な状態

不登校

落ち着きがない

身なりが整わない

自傷行為

遅刻・早退

忘れ物

希死念慮

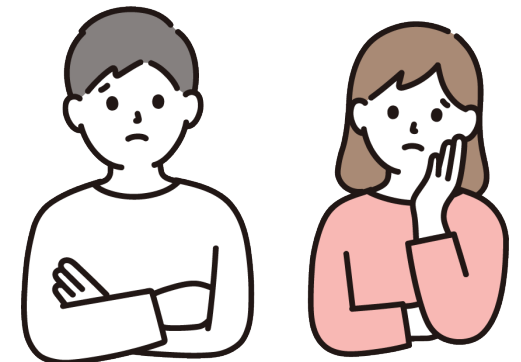
学習の遅れ

提出物が出せない

心身の不調

暴言
暴力

友人
トラブル

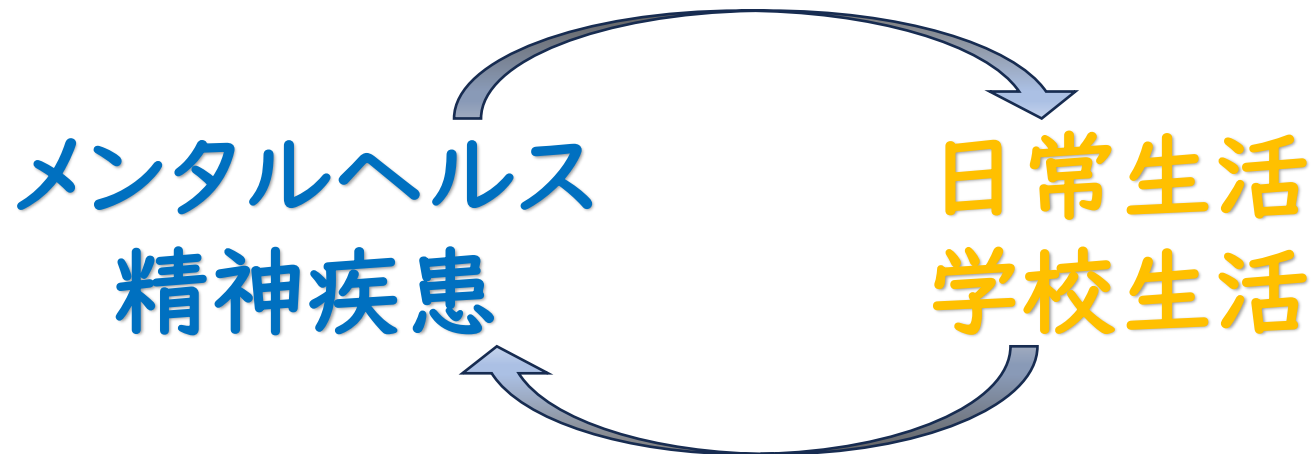


メンタルヘルスと深い関係

- 精神疾患を抱える子どももいる

うつ病、統合失調症、不安障害、摂食障害、発達障害、インターネットゲーム障害...

- 精神疾患のために生活に影響を与えることもあれば、生活（ストレスとなる出来事）がメンタルヘルス（精神的な健康）に影響を与えることもある



家庭の状況と子どもの状況の関連性

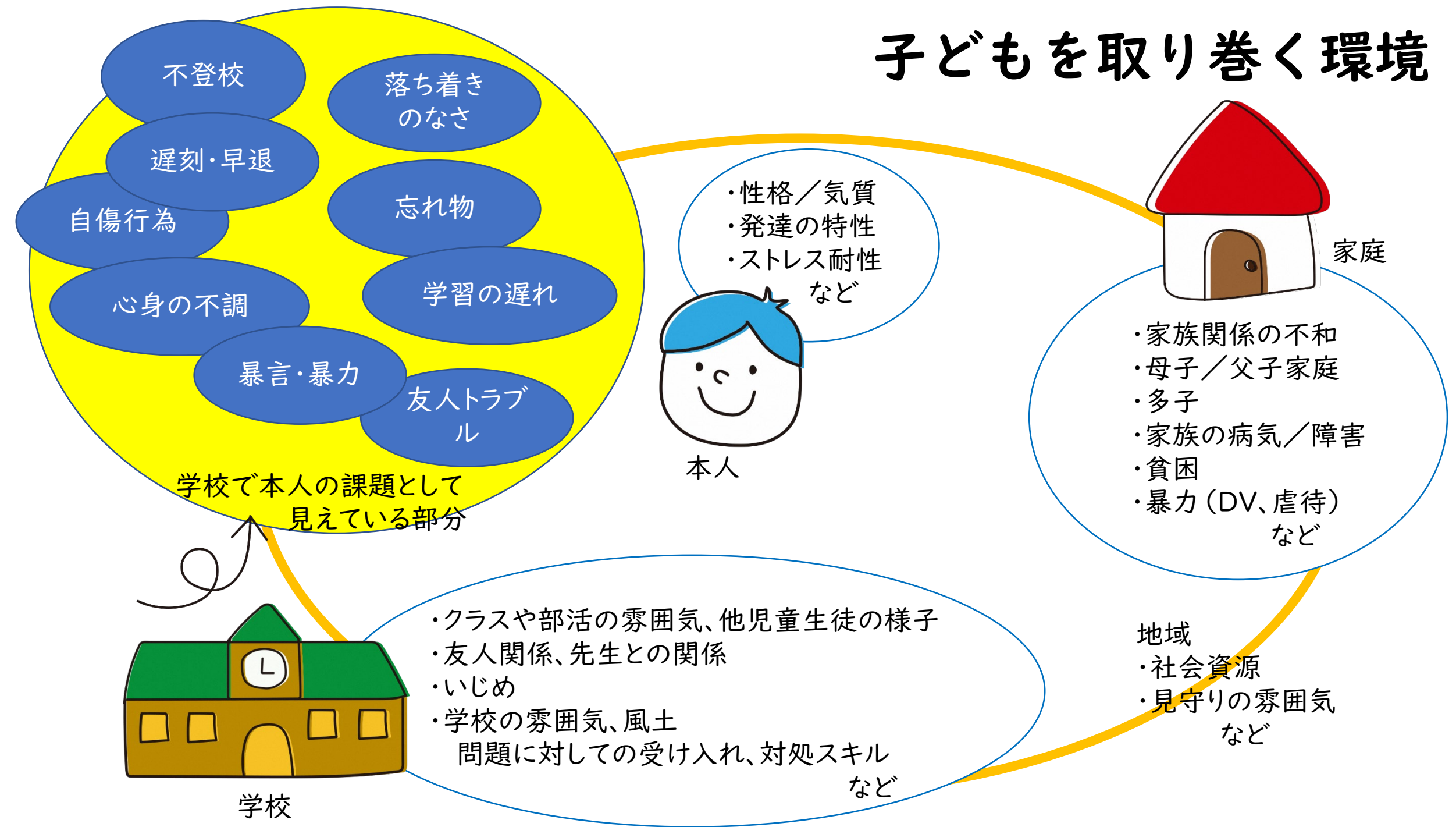
家庭の状況

- 精神疾患
- 重篤、慢性的な
身体疾患や障害
- 母子/父子家庭
- 貧困
- DV
- 虐待
- 外国ルーツ

子どもの状況

- 学校生活を送るうえで必要な物を揃えられない。
- 生活リズムが崩れて朝の登校時間に送り出せない。
- 行事に参加できない。
- 子どもが家族のことを心配し、安心して学校に通うことができない。
- 家庭生活のことで精一杯で学校に行く気力がない。

子どもを取り巻く環境



ソーシャルワーカーが行う支援



- 生活が回っていくために必要なことを一緒に考える。
- ホームヘルプサービス(精神障害者居宅生活支援事業)の説明、利用に向けての支援。

- 学習に取り組みやすい環境(場所、人、使う物)を整える。→担任の先生との連携。地域の資源の活用。
- 配布物を渡すときの工夫。

*倫理的配慮の観点から、複数事例を組み合わせて加工した

支援の中で大切にしていること

- 子どもの声、願いを中心に据える
【権利擁護】【ウェルビーイングの向上】【アドボカシー】
- 子ども、保護者、関わる大人（教職員、関わる機関の職員等）のそれぞれの強みを活かす
【ストレングス】【協働（パートナーシップ）】

子どもや保護者に関わる方に知っておいてほしいこと

- 困っている子どもや保護者は、“今抱えている問題がずっと続くだろう”、“変わるわけないだろう”と感じているかもしれない
- これまで相談したけれど、うまくいかなかった経験をしていることもある
- 一人で抱えるよりも、「信頼できる人に話すこと」、「相談して一緒に考えること」が大切。打ち明けられたとき、心配をキャッチしたときは、丁寧にその方の話を聴く

家族 親戚 近所の方 担任の先生 養護教諭 顧問の先生
他のクラスの先生 スクールソーシャルワーカー スクールカウンセラー
行政機関の子ども支援・生活支援に関わる方

